

令和3年度 学校経営計画・学校評価

□4月5日提出 □10月15日提出 ☑3月15日提出

学校番号	50	清水	高等学校	課程	定
学校関係者評価					
【学力の向上】	評価 【 A 】				
夜光虫(文集)や定時制通信を通して、また、授業参観、卒業式等の行事に参加する度に、生徒たちはそれぞれに成長していると感じています。					
【社会性の育成】	評価 【 A 】				
生徒は、それぞれに社会性の大切さを認識し、その向上に努めていると感じます。卒業式での生徒たちの姿勢・態度は、その成果であると思います。					
【チーム学校】	評価 【 A 】				
学校教育は、生徒・家庭・地域社会・行政の総合力だと考えます。学校現場においては、何事にも組織的に取り組んでいくためのチーム力がとても重要です。清水高校定時制は、チーム学校として組織的に機能していると思います。					

高知県の教育の基本理念	(1)学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく子どもたち (2)郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人材	取組の方向性	①チーム学校の推進 ②厳しい環境にある子どもへの支援や子どもの多様性に応じた教育の充実 ③デジタル社会に向けた教育の推進 ④地域との連携・協働
目指すべき姿	○地域から信頼される学校 伝統、校風を継承するとともに、組織的な学校運営に努め、生徒の実態や社会の変化を踏まえながら、教育活動の計画、実践、評価、改善を行う。そして、生徒が満足し、保護者や地域に愛される学校を創造する。	目指すべき姿を実現するための取組等	○学習意欲を向上させ、基礎学力の定着を目指した授業改善 ○自尊感情や自己肯定感を高める体験学習の構築 ○地域関係機関と連携した生徒支援体制の構築 ○「定時制通信」や「夜光虫」を活用した定時制教育の理解を深めるための地域への情報発信
生徒像	○学ぶ意欲を持ち、納得するまで考え判断し行動できる生徒。 ○高い志を持ち、その実現に向けて挑戦し努力できる生徒。 ○豊かな人間性を備え、他者と協働できる生徒。		

《重点項目：生徒に対する取組項目》

(評価)A: 目標を十分に達成 B: 目標を概ね達成 C: やや不十分 D: 不十分

	育成を目指す資質・能力【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
学力の向上	○基礎的・基本的な知識及び技能 ○思考力、判断力、表現力等 ○主体的に学習に取り組む態度(学習習慣を含む)	令和2年度末 ①オリジナルアンケート問9 90% ②出席率 94% ③学校評価アンケート ・「あなたは本校の授業内容に満足していますか」80% 目標 ①オリジナルアンケート 問9の肯定的な回答 85% ②出席率 90% ③「あなたは本校の授業内容に満足していますか。」の肯定的な回答 85%	・個々の学力に応じた個別指導を行う。 ・基礎学力定着に向け、補助教材の工夫と長期休業期間中の課題を工夫する。 ・学期ごとの面談週間や1学期末の保護者面談を実施する。	B	・オリジナルアンケート(第1回)問9「授業はよく理解できている」の肯定的な回答 87.5% ・1学期終了時の出席率 86.7% 目標をほぼ達成	B	目標①オリジナルアンケート問9 87.5% ②出席率 81.6% ③授業満足度 71.4% ・出席率が目標値よりも低くなり残念であるが、授業態度や取り組む姿勢は向上している。
社会性の育成	○コミュニケーション能力(かかわる力) ○キャリアデザイン能力(やりぬく力)	令和2年度末 ①オリジナルアンケート 問22 90% 問27 80% ②学校評価アンケート ・「本校の学校行事は楽しく満足のものですか。」90% 目標 ①オリジナルアンケートの肯定的な回答 問22 85% 問27 85% ②「学校行事は楽しく満足のものですか。」85%	・総合的な学習(探究)の時間を活用して、仲間づくりや人間関係づくりの機会を多く設定する。 ・異学年交流活動や体験学習において、「やりぬく力」「かかわる力」を高めるための活動・場面を多く設定する。	C	・オリジナルアンケート(第1回)問22「相手の気持ちを考えて行動する」の肯定的な回答は100%となっているが、「かかわる力」は、ほとんどの生徒が弱い。 ・体験学習等が達成感・自己肯定感を高める活動となるよう、さらに工夫し、「かかわる力」「やりぬく力」に繋げていきたい。	B	目標①問22「相手の気持ちを考えて行動する」100% 問27「最後まで考えたり行動したりする」50% ②学校行事の満足度 57.1% ・学校行事の満足度が低い結果となり残念ではあるが、行事後の振り返りやアンケートにおいては、満足感を得ていることがわかる。また体験学習等の参加率も上昇している。

《チーム学校：教職員が取り組む項目》

	取組のねらい【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
授業改善	○基礎的・基本的な知識及び技能の育成 ○思考力・判断力・表現力の育成 ○主体的に学習に取り組む態度の育成	○令和2年度末学校評価アンケートの結果と今年度の目標 ①「あなたは本校の授業内容に満足していますか。」90% → 目標95% ②「あなたは授業中の教材や教え方の工夫を努力している先生が多いと思いますか。」100% → 85%	・目的やねらいを明確にした「わかる授業」を展開する。 ・ICT機器を使用した効果的な授業。 ・教員間で生徒情報を共有し、個々の生徒に応じた生徒支援・指導を行う。	C	【9月実施アンケート】 ・「勉強のやり方がよくわからない」42.8% ・「授業がよくわからないことが多い」14.2%	B	目標①「授業の満足度」71.4% ②「教え方の工夫」71.4% ・中間評価以降、ねらいを明確にした授業展開・授業改善が行われた結果、数値的には改善したといえるが、目標値には達することができなかった。
生徒理解 生徒支援	○生徒一人ひとりの学習歴や生活環境等の情報を理解・共有し、個々の生徒に応じた生徒支援を組織的に行う。	○令和2年度末学校評価アンケートの結果と今年度の目標 ①「あなたは本校に入学して良かったと思いますか。」90% → 目標85% ②「生徒指導について、どの教員も同じ基準で指導していると思いますか。」90% → 目標85%	・アセスを活用した校内研修(年2回) ・外部機関と連携した特性に関する研修 ・登校時における挨拶指導と生徒観察 ・学期ごとの面談週間や保護者面談の実施	A	・はたサポと連携した生徒理解・生徒支援に関する校内研修を実施。 ・市教育センターとの連携・生徒情報の共有。 ・アセス分析会の実施	B	目標 学校評価アンケート①71.4% ②100% ・目標②が100%となったことは、生徒理解・生徒支援に関する研修等が日々の指導に生かされているものと考えられる。
学校の振興	○学校行事や体験学習の充実を図り、多様な生徒の「居場所」としての役割を果たす。 ○地域へ情報を発信し、定時制教育への理解と協力を得る。	○令和2年度末学校評価アンケートの結果と今年度の目標 ・「本校の学校行事は満足のものですか。」80% → 85% ○定時制教育振興会の活動を維持し、定時制教育への理解と協力を図る。	・生徒情報について、関係機関との定期的な情報交換を図る。 ・体験学習や異学年交流活動において、自己肯定感を高める活動を取り入れる。 ・「定時制通信」「夜光虫」の発行。	B	・コロナ禍において、多くの体験学習が中止となる中、陶芸教室においては、多くの生徒が参加し、作品を仕上げる事ができた。	B	学校行事の満足度は、57.1%と低い数値となったが、体験学習等の参加率は上昇し、積極的に取り組む場面は増加している。多様な生徒の「居場所」としての役割を果たしていると考ええる。
働き方改革	○効率的な業務の遂行 ○ICT機器の活用した業務改善	○出張や休暇取得時に、業務分担や時間割変更が円滑に行われるなど、教員間の協力体制が構築されている。 ○家庭との連絡や授業等において、ICT機器の効果的な活用方法を検討していく。	・教員間の協力体制を維持し、チームとして業務に取り組む。 ・出張時等において、できる限り時間割変更等を行い、自習時間0を目指す。 ・ICT機器を活用した授業を、年間一人3時間以上を目標とする。	B	・業務に対する教員間の協力体制が維持され、効率的な業務の遂行がなされている。 ・授業や業務において、ICT機器を活用する機会が増加している。	A	・教員間の協力体制が維持され、チームとして業務を行うことができた。 ・年間一人3時間以上のICT機器を活用した授業は、目標をほぼ達成。